

高相研だより～POLE STAR～

NO. 1 令和4年8月22日 北海道高等学校教育相談研究会広報部発行



令和4年7月1日（金）、ホテルライフオーソ札幌において、令和4年度北海道高等学校教育相談研究会総会及び第1回研究協議会を開催しました。基本的に対面での開催としましたが、時間や勤務地の関係等により対面での参加が難しい方にはオンラインで参加していただきました。当日の議事録・記録等に基づき、報告します。

総会について

- 令和3年度の活動報告、会計決算報告、会計監査報告があり、全て承認されました。
- 令和4年度の新役員が選出され代表として近藤浩文会長から挨拶がありました。
- 令和4年度の活動計画、会計予算について提案があり、全て承認されました。
- 規約の改定について、山田事務局長より第7条、監事を削除、第9条(3)、監事を常任幹事に変更の提案があり、承認されました。
- 最後に、北海道高等学校教育相談研究会第51回研究大会、今年度における支部活動報告書の提出及び教育相談活動実践集の作成および提出について連絡がありました。

研究協議会について

- 各管内高等学校教育相談研究会支部校の紹介と今後の予定について連絡がありました。
〈実践交流〉
- 札幌新陽高等学校 山田 盛雄教諭より、「札幌新陽高等学校の実践例」を題で実践発表をしていただきました。

〈実践発表記録〉 ※紙面の都合上、一部の内容について記載させていただきます。

相談対象の生徒は、主に人間関係の困り感、怠け・問題行動、発達、家庭環境に課題を抱えている。

担任が問題をキャッチし、学年・相談部と連携しているが、対応が間に合わず転学や退学するケースも多い。生徒を多角的に理解するために生徒との面談やNOCC教育検査などを実施している。また、予防開発的な教育相談が必要だと感じており、生徒向けにSGEの演習などを行っているが、回数は少なく、持続することが大切であると感じている。他校ではどのような取り組みを行っているのか、情報の共有をしていくことが大切であると考えている。

〈講演〉

- 札幌大谷大学短期大学部 今西良輔准教授より、「高校生とスクールソーシャルワーカーのつながりー社会資源の活用」の演題でご講演いただきました。

〈概要〉

- ・SSWの支援を必要とする生徒とはどのような生徒か。貧困と経済の衰退が高校生を直撃しているように感じる。
- ・ヤングケアラーの実態として、保護者が非正規雇用の場合、高校生がアルバイトや家事で家庭を支えている場合がある。
- ・SSWの役割は、家庭やその子に色々な社会資源をもって支援することである。特に1人親は、貧困率が高く、家庭環境や金銭面で困り事を抱えている場合は、在学中にSSWの活用も手立てとして考えてもらいたい。
- ・子どもは、不確実な状況でも「大丈夫だよ。何かあったら頼っていいよ」という存在があると安心できる。居場所やよりどころをどこにするのか、関係機関とつなげることが大切である。大人になることを楽しみだと思えるような関わりを心がけ、社会資源を伝えていきたい。

〈感想〉

貧困やヤングケアラー等の問題により、家庭を支える高校生に対し、社会的自立に向けて、まずはSSWに相談しつなげることが必要だと感じました。

【編集後記】

今年度から発行担当者が変わりました。わかりやすい記録を心がけ、全体へ発信したい情報や共有したい情報を載せていきます。お気づきの点などがございましたら、広報部までご連絡ください。（広報部：北海道札幌南陵高等学校 安川 愛莉）